祥月法要のお知らせ

　祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの仏徳を讃嘆し、報謝の思いでお勤めする法要です。

日時：2024年７月７日（英語：午前１１時から）（日本語：午後１時から）

　　2024年８月４日（英語：午前１１時から）（日本語：午後１時から）

場所：トロント本願寺

※英語法要のみZoom配信をさせていただきます。

ZOOMでの参拝を希望される方は、その旨を<tbc@tbc.on.ca>までお知らせください。
寺院事務所からzoom link を送らさせていただきます。

故人が祥月でない方もご遠慮なくご参拝下さい。

ピクニックのお知らせ

日時　8月10日(土)　10～17時

場所　ワサガビーチ（ルンビニ）

食事：ホットドック・ハンバーガーなど

スイカ割りなどのゲームもする予定です。

参加希望者は寺院事務所（416）534ー4302

までご連絡ください。

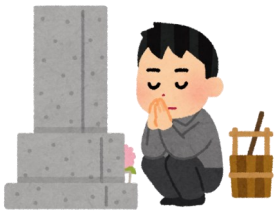
敬老会の開催報告

　5月26日(日)に77歳（喜寿）、88歳（米寿）、99歳（白寿）以上という節目の年齢に達したお寺の会員を表彰する「敬老会」を開催いたしました。

　昼食後には、一心太鼓、キッズサンガ、TBCの舞踊グループ、様々なカラオケ歌手によるスペシャル・パフォーマンスが行われました。

ご協力いただいたボランティアの皆さまに感謝いたします。

お墓参りのご案内



お盆とは先にお浄土へ還って往かれた方々を偲び
そのお導きによって私が今、お念仏する身へと
お育ていただいた事に感謝する大切なご縁です。
是非ともご家族おそろいでお参りになって下さい。

7月13日（土曜日）　お墓参り　トロント各墓地

お墓参りのスケジュール

橋本顕正開教使		スーザン恵比寿崎		ジェフ・ウィルソン先生	
York Memorial	9:00 AM	Sanctuary	9:00AM	Glen Oaks	9:30 AM
Prospect	10:15 AM	Riverside	9:30 AM	Spring Creek	10:30AM
Park Lawn	11:30 AM				
グラント生田開教使		ポーリン・クヌーデ			
Toronto Necropolis	9:00 AM	Salem U.C	11AM		
St. James	9:30 AM	Pine Ridge	12PM	デニス間所	
Mount Pleasant	10:30 AM			Highland Memorial	9:30 AM
ケン・シゲイシ				Elgin Mills	11:30 AM
Pine Hills	9:30 AM	ジョン西川			
Resthaven	10:45 AM	Glendale	9:30 AM		

盂蘭盆会法要（お盆）のご案内

日程：２０２４年７月１３日（土）　午前：お墓参り（トロント各墓地にて）
午後：夏祭り（盆踊り）　JCCCにて
２０２４年７月１４日（日）　午前９時：初盆法要
午前１１時：英語盂蘭盆会　トロント本願寺にて
午後１時：日本語盂蘭盆会

初盆法要ならびに盂蘭盆会法要に関して質問のある方は、当寺院の事務所 < tbc@tbc.on.ca >までご連絡下さい。

※JCCC盆踊りに関しましてのお問合せは、JCCCまで宜しくお願い致します。

今年はスティーブストン仏教会よりグラント生田先生をゲストスピーカーとしてお呼びしております。どうぞ皆様ご家族揃ってご参拝下さい。

これは浄土真宗の宗祖であります親鸞聖人がお書きになられたお手紙の中の一文であります。現代語訳すると「ただ阿弥陀さまにおまかせしなければなりません」という意味でしょう。

阿弥陀さまは私を苦しみから救いたいと願いを起こし、そのための行を修め、全ての者を救うことのできる仏さまとなられました。いわば、救いの専門家であります。

しかし我々をそのまま救うという至極の仏さまであるのにも関わらず、私たちはその救いに必要のない余計なことを沢山考えてします。では私たちは阿弥陀さまに何をおまかせするのか、それは一言でいうと、生死の問題です。

仏教というのは、どの宗派であっても共通して、「生死の問題を超える」道を教えるのです。それが様々な教えに分かれるのは、生死の問題を超える方法が、対象によってそれぞれに違うからです。ゴールは同じでも、それに至るためのプロセスが違うということです。

この「生死の問題を超える」ということは、生きることも死ぬこともありがたいと受け止めていけることでしょう。そのような世界に至らない限り、我々は本当の意味で安らぎ落ち着くことが出来ないということを仏教は教えるのです。

生きている私たちは死んだら終わりであると考えます。生きるということの終わりが死です。ですから、生きることのみ感謝する方々は、そのありがたい生が終わる死というものをありがたいとは思わないはずです。逆に、死をありがたいと思う方は、生きることに希望を失い、生きていることをありがたいとは決して思っていないでしょう。

生と死どちらかがその人にとって絶望に変わっていくところには、安らぎなど微塵もないことは明白です。我々には、避けようのないそのような絶望が必ず誰の上にも訪れるのです。

そういった絶望の問題を阿弥陀さまにおまかせするのです。このおまかせする心も阿弥陀さまの願いによってもたらされるものであります。

「お願いだから、私の名を称えることをあなたの生きがいとしておくれ、そして、死ぬのではない、浄土に生まれていくいのちであると思っておくれ」と阿弥陀さまは、この私に対して一心に願ってくださっています。

私のために作られた「おまかせコース」を楽しむように、この阿弥陀さまの願いに私の生も死もおまかせしていくのです。

お念仏を称えることを生きがいとし、浄土に生まれることを死の意味として受け取る人の人生はどんなに厳しい人生であろうとも、また、どんな死のかたちであろうとも、その人のいのちは、決してむなしくはなりません。

生も死も豊かに実っていく、それが救いの専門家である仏さま、阿弥陀さまにおまかせするということです。

南無阿弥陀仏

トロント本願寺　駐在僧侶
橋本　顕正

枕経について

ご家族の枕経を検討されている場合は、事前に当寺院の事務所へご連絡いただくようお願いしております。

ご希望の時間を調整し、亡くなられる前であれば、ご一緒に臨終の仏徳讃嘆のお勤めを、亡くなられた後であれば、故人を偲びながら仏徳讃嘆のお勤めをさせていただきます。

当寺院に事前にご連絡いただくことによって、ご家族の質問への対応や必要な情報を提供することが可能となります。

枕経についての連絡、質問については、（４１６）５３４－４３０２あるいは、〈tbc@tbc.on.ca〉までご連絡いただくようお願いいたします。

留守の場合はメッセージを残していただき、担当者が折り返し対応させていただきます。

トロント本願寺　理事会

佛心

二〇二四年七月号
浄土真宗　本願寺派
トロント本願寺

おまかせするということ

四月からトロント本願寺に駐在している橋本顕正です。

今月号の仏心から記事を書くことになりました。拙い文章ではありますが一緒に阿弥陀さまのみ教えをよろこばせていただければと思います。

私は、すでに僧侶としてトロントのお寺に駐在しておりますが、今年の3月に京都の龍谷大学の大学院を修了したばかりなので、ほぼ毎月カナダの各地のお寺から経験豊かな開教使の先生が私の研修のためにに来てくださいます。

五月末にはブリティッシュコロンビア州からスティーブストン仏教会の駐在開教使であるグラント生田先生が研修に来てくださりました。皆さまご存じの通り、生田先生は一九九二年から二〇〇八年まで約十六年間トロントのお寺の駐在開教使としてご活躍された先生です。生田先生が開教使としてトロントに赴任された時の年齢が今の私と同じ年齢であったそうです。

また、今回先生がいらした週末には敬老会も行われ、多くの方々が先生との再会を喜ばれていました。自分も先生のように皆様とご一緒にお念仏のみ教え、阿弥陀さまのみ教えをよろこぶという念仏者として理想の関係を築いていきたいなと思っています。

研修では生田先生から日本語と英語の法話の違いなどをご指導いただくとともに、日本語でのこのお寺の呼称の話になりました。

これまで「トロント仏教会」という名前で「仏教会」という呼称に愛着をもたれている方も多くいらっしゃるかと思います。実際私もこのお寺を呼ぶときには「仏教会」がしっくりきています。

しかしながら「仏教会」という呼称では、新しく日本から移民された方々からするとこのお寺が浄土真宗のお寺であるということがわからないという問題があります。さらに新宗教やカルト集団かも、という疑念を持つ方が出てきてしまう可能性もあるので「トロント本願寺」という呼称を積極的に使ってみては、というご指摘を生田先生からいただきました。

確かにこの3か月、新移民の方々をお寺で見るという機会はほとんどありませんでした。少しでも多くの方に浄土真宗のみ教えに出遇っていただきたいという思いからのことですので、「仏教会」という呼称に愛着のある方もこれからは少しずつ「トロント本願寺」という呼称を日本語では浸透できるようご協力いただければと思います。

さて話が少し逸れましたが、生田先生の滞在中には昔、先生がよく訪れていたという二軒の日本食のレストランに行きました。生田先生がトロントに駐在していたのは十六年も前のことですからそのうちの一軒は既にオーナーさんが新しい方に代わっていました。しかし、そのお店のメニューや味は変わっていないと先生はおっしゃっていました。

一方でもう一軒のお店は十六年前と変わらないオーナーさんが今もそのレストランを経営していらっしゃいます。そのレストランのメニューを眺めていると、「大将のおまかせコース」という一つのコースが私の目に止まりました。私もトロントに来てからというもの、数々の日本食のレストランに行きましたが、「おまかせコース」をこちらで見たのは初めてでした。その日は別のコースを私と先生は注文しましたが、「おまかせコース」がメニューにある店は間違いなくシェフの料理の腕に自信のあるお店でしょう。

日本の高級レストランの「おまかせコース」は凄いと聞きます。その日に仕入れた野菜や魚などの旬の食材を使うことはもちろんですが、飲んでいるお酒や年齢などからそのお客さんのためだけにオリジナルコースメニューをその場で考案し、作る場所もあるという話を聞いたことがあります。

まさにプロフェッショナルの仕事ですね。その仕事ぶりに私のような素人が口を挟む余地などないかと思います。出てくる一品一品に感動しながら、ただただ、その料理をいただくまでであります。

阿弥陀さまという仏さまと私たちの関係もそのような関係といえるでしょう。

ただ如来にまかせまゐらせおはしますべく候ふ

『親鸞聖人御消息』第二十三通

（『註釈版聖典』七八一頁）